

## 地域銀 証券運用を外部委託 富山銀が運用基盤Gと提携

地域銀行で、有価証券運用の戦略立案を含む業務全般を外部の専門家に委託する動きが顕在化してきた。富山銀行は5月13日、日本資産運用基盤グループ（G）（東京都）とアドバイザリー契約を締結。約1300億円の運用資金のすべてで、投資助言を受ける。

自社商品を売り込みたい運用会社から助言を受ける銀行は多いが、中立的な立場で助言に徹する同社のような外部機関から総合的支援を受けるのは、地域銀で初。富山銀行は、投資助言に加えて、運用やリスク管理の体制整

備、事業基盤の高度化など総合的な支援を受ける。2020年秋から試験的に調査・分析を委託し、改善計画を策定。このたび正式に契約した。同行の森永利宏常務は「適切なリスクを取りながら安定的な収益を上げられ

るように、長期的な目標でポートフォリオの策定や体制づくりをしていきたい」と狙いを語った。マイナス金利政策の長期化や預貸率低下を背景に、有価証券運用は難易度が増しているが、中小規模の地域銀は、自前で

の人材確保や情報収集に限界がある。運用会社から助言を受ける場合は利益相反のリスクもある。独立系の日本資産運用基盤Gは「中立的な立場からプロセス重視のアドバイスを提供できる」（大原啓一社長）のが強み。同行が運用会社から商品の提案を受ける際も、同社の担当者が同席して伴走型の支援を継続する。今後3年で10〜20行との契約を目指す。